

広報たかつき

知る 広がる 好きになる

# TAKATSUKI

Days

令和5年

1

No.1418

市制施行80周年  
記念インタビュー

村上信五さん

特集

みんなの  
将棋。

連載

キラリスポーツ

「柔道」

たかつき歴史アラカルト

「円筒埴輪を見る」

週末どこ行く？ 何食べる？

おでかけDAYS

「城下町エリア」

\\ CLOSE UP /

たかつき発展の軌跡

※発行時の表紙の写真は、ウェブ上での掲載期間について、令和5年3月24日までとして編集したもので、現在、ご覧いただくことはできません。この表紙は別の写真を表紙用に差し替えて再編集したものです。

Murakami Shingo

Murakami Shingo

# 年齢を重ねて より誇らしく 思えるように

高槻市出身で関ジャニ∞の

メンバーとして活躍する村上信五さん。

20歳ごろまで過ごした日々の思い出や

高槻市の魅力を語っていただきました。

## 村上信五

むらかみ・しんご／1982年1月26日生まれ、高槻市出身。2004年に関ジャニ∞のメンバーとしてCDデビュー。バラエティ番組「月曜から夜ふかし」や「午前0時の森」(日本テレビ系)、「関ジャニ∞の あとはご自由に」(フジテレビ)など数々の番組に出演している。

※発行時、ここに掲載していた写真は、ウェブ上での掲載期間を令和5年3月24日までとしていたものであるため、現在、ご覧いただくことはできません。ご了承ください。

## 青春の思い出が たくさん詰まった場所

——まずは幼少期のお話から。村上さんは高槻市で、どのような日々を過ごしていたんですか？

「いや、特別なことは何もなくて。ごくごく普通ですよ。僕の家は駅からだいたい北に行ったところにあったもんで。言うても近所のスーパーマーケットや駄菓子屋さんが閉まったら、もう真っ暗でした。摂津峡に自転車で川遊びに行ったり、お金を使わずいかに楽しく遊ぶかっていう、男の子の普通の幼少期です」

——川で遊ぶというのは。

「自分たちの秘密スポットみたいなんを作って、そこで飛び込みをしたりとか。飛び込んでも大丈夫なところを探して遊ぶのが主流やったかな。結構、上流のほうまで行ってましたね。ホンマは行ったらあかんかったのかもしれないけど(笑)。流れの急なところで逆流していくとか、誰が一番早く、あの石のところまで上がるか、わんぱくしてました。浅瀬で手打ち野球もやりましたね。上流の子がピッチャーでカラーボール投げてっいう。でもそんなに人数集まらんから、1人が投げて1人が打って、あとの2人が適当に守って、と三角野球みたいなのを自分らでルール決めてやりました(詳細にルール語る)」

——よく覚えていますね！ 高槻市で過ごしていたのはいつぐらいまでですか？

「中3のときにジャニーズに入り、ちょこちょこ東京にも行ってきましたけど、成人するまでは高槻市にいましたよ。京都と新大阪の間で新快速が停まるのが高槻だけやから、東京行くときは新大阪から、帰りは京都で降りて新快速で高槻に帰ったり、いろいろ変えてました」

——村上さんにとって、高槻市ってどういう場所ですか？ 自然も娯楽も、何でもそろっていたとか。

「いや、何でもなかったかなあ(笑)。僕がいた頃は。はじめてマクドナルドができたのが小学校4、5年くらいのときで、テンションが上がったのは覚えています。お父さんと弟と街に出たときに、ポテトが食べてみたくて、お父さんにお金もらって買いに行ったんです。えらい行列に並んでね。そのとき、ポテトのS

が140円ってあったから、140円もらってレジで払おうとしたら、消費税がプラスされて144円やって言われて。買われへんかったんです。店員のお姉さんから、“ごめんね、ぼく”って、弟からは“兄ちゃん、なんで食べられへんの？”って言われたの、鮮明に覚えていますよ。“もういっぺん買ってくる！”って行ったら列がもっと伸びてて、お父さんから“あかん！ 帰るで”って。はじめてのファーストフード店のポテトは食べられへんかった。他にもTSUTAYAができて仲間内で盛り上がりたり、いろいろありました(笑)」

——駅のほうに“下(くだ)って”行っていたんですね。

「そうです。家からどこに行くにも、下らないといけなかったから、帰りの登りの道での自転車の足の重さたるや！ きっつい、きっつい(笑)。まあ、坂の多さも高槻市の特徴でしょうか。えぐい傾斜の坂とかもありますから。そこを自転車で1回も足をつかずに登れるようになったときとか、自分がむっちゃ強くなった気がしました。友だちみんなで競争したこともあります。今の高槻市は僕が住んでいた頃より都会になっていると思

※発行時、ここに掲載していた写真は、ウェブ上での掲載期間を令和5年3月24日までとしていたものであるため、現在、ご覧いただくことはできません。ご了承ください。

Murakami Shingo

※発行時、ここに掲載していた写真は、ウェブ上での掲載期間を令和5年3月24日までとしていたものであるため、現在、ご覧いただくことはできません。ご了承ください。

ますけどね。後輩で関西ジャニーズJr.のAmBitiousの真弓孟之が同じ高槻市出身なんです。最新の情報は真弓くんから聞いているんですが、トボスの話をしても、もう知らなかったな(笑)」

——**当たり前に触れていたけれど、実は他では当たり前ではなかったことというの？**

「古墳とか、中学の真ん前やったからね。当時はそれが普通だと思っていたから。学校の前に古墳はあるもんやと。そういうのも自然に学べたし、いいところで過ごせたと思います」

——**中学時代の思い出話もぜひ。**

「芝生の体育館ってまだあります？ あそこは中学時代、バスケットの大会でよく行ってたんです。中1のときなんか、先輩の分のボールも、3つぐらい担いでね。当時は、五領中学校の女子バスケット部が強かったんですよ。その女子バスケット部の子たちがめちゃくちゃ可愛く見えたから、“ほんならみんなで自転車で五領中まで行こう！”って。めっちゃ青春やったわ〜。僕はヤナ中(柳川中学校)ってところとライバルやったんやけど、中3の最後の試合で、僕がブザービーターを決めたんです。そのヤナ中の2人と僕ともう1人のチームメイトが仲が良くて、僕ら、他の中学の女子バスから、ちょっとこうカッコイって羨望の眼差しで見られていて。僕らの試合、女子も見に来てくれましたからね。ブザービーターで盛り上がり、次の日から僕は芝中(芝谷中学校)のスターになり、その数カ月後にジャニーズに入りました。あのときが僕の人生のピークやったなあ(笑)」

——**いい青春ですね！**

「まあ、それで調子に乗ってたんやろうなあ。そのまま五領中に行っても相手にしてくれるやろと思って、自転車で乗り付けたら、向こうの先生から“不審者が学校のまわりをウロウロして

いるから、下校時注意してください”なんてアナウンスされてしまって。結局、その女子バスケット部の子たちとは会えないままでした。幼少期は活発に遊べましたし、思春期の好奇心も遺憾なく発揮してもらいましたよ。あっ！あと美人湯 祥風苑もよく行きました。近所のおばちゃんが勤めていたこともあって、マル(丸山隆平)ともよう一緒に行ってたなあ。マルはうちの実家によく泊まっていたから、夜はこの温泉行ってたんです」

——**高槻まつりにも行っていましたか？**

「子どもの頃は。中に写真が入れられるロケットペンダントをお母さんに買ってました。今はロケットなんて言わへんかな(笑)。あとはなげなしのお金で、焼きそば買うか、綿菓子買うか、スーパーボールすくいをするかっていう。買ったものを友だちと半分こしたり、“一口ずつな”“お前の一口、めちゃうちゃデカイやんけ！”って、しょーもないケンカになったり(笑)。いや、話してるといろいろ出てくるなあ」

## 後輩を携えて いつか凱旋公演ができたら

——**せっかくですから、TAKATSU-KING(タカツキング)誕生秘話も改めて、お聞かせいただけると。**

「あれ言うたんは、マツコ(・デラックス)やからね。僕の意志なんか1ミリもなくて、ひとり歩きしていった感じなので、逆に高槻市に迷惑かかっていないかなあと心配していたんです。僕が高槻市出身というのをマツコが知ってくれたのと、別でKINGというキャラクターでラップをやっている。関ジャニ∞10周年のときやったかな。それで、その2つをかけたらええやんっていう流れで、ほなTAKATSU-KINGでって。そうしたら、久保田利伸さんがおもしろがって曲を書いてくれるという、もうわけのわからん感じで僕の手から離れていった(笑)。それを見ていた後輩の真弓くんが、「TAKATSU-KINGがすごい好き」って言うてくれてね。まわりのみなさんの尽力のおかげで認知されて、少しでも高槻市に恩返しができるのであ

れば、それはそれで、よかったのかなあと思っています」

——**高槻市のマスコットキャラクター“はにたん”や“うどんギョーザ”といった地元フードはいかがですか？**

「以前、はにたんは市の方からグッズなど、いろいろ送っていただきました(笑)。うどんギョーザは、かなり新しいですよ。子どもの頃から家で食べていて、今でこそハイカラにアレンジされていますが、うちではうどんとニラ刻んで、小麦粉溶いたやつにポン酢つけて食べていました。高槻で1、2を争うくらい、具が少ないんちゃうかな(笑)。そういうのにもスポットが当たるようになったんや!？ って、驚きました(笑)」

——**将棋会館など、高槻市の進展は耳に入っていますか？**

「聞いてます。高槻情報はちらほら入ってきてますから。自分がよく行ってたスポットはまだあるのかどうかっていうのは後輩の真弓くんから、行政的な変化は大人から聞いてます。えらい立派な劇場もできると。完成したらいっぺん見に行きたいですよ。成人式のときは、市民会館に行ったんです。ちょうどジャニーズに入って数年経っていて、まあローカルな活動しかしていないけど、もしなんか迷惑になったらいけないなあと思って、小中学の友だちとパパッとね」

——**村上さんが思う、高槻市の魅力とは!？**

「今は何でもありますし、まず立地がいいですよ。京都にも近いから、車の免許取ってからは、京都にもめっちゃうやりました。大阪方面、兵庫にも出やすいし、北に行けば、しいたけの産地やボンボン山っていう、ハイキングコースなんかもある。南は淀川とかがあって、雅楽師の東儀秀樹さんにお聞きしたんですが、高槻の葦がめちゃくちゃええんて。日本で一番いい葦があるんだよって教えていただいて。将棋とかも含めて、日本の文化に関わるものがあって、年齢を重ねてから、より誇らしく思えるようになりました」

——**最後に2023年の抱負など、市民に向**

**けたメッセージをお願いします。**

「ええっ!? そんなん、まるで行政の人やんか! まあ、出馬するとなったら大阪10区ですけど。って、このネタ、大人にしかウケへんし、コンサートで一度ダダ滑りしてからはやっていません(笑)。冗談はさておき、新劇場では、いつか凱旋公演みたいなのをさせてもらえたら、うれしいです。後輩を携えて、自分の街でそういう公演ができればええなと。まだ僕の賞味期限があるうちに(笑)。高槻市に興味を持ってくれた人には、摂津峡など自然の多い場所はおすすめてですよ。新しい施設は僕もよく知らんから、いったん、ちゃんと足を運ばないと。いつかじっくり回って、思い出に浸りたいです」

※発行時、ここに掲載していた写真は、ウェブ上での掲載期間を令和5年3月24日までとしていたものであるため、現在、ご覧いただくことはできません。ご了承ください。